

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990200172		
法人名	株式会社ケアフォレスト		
事業所名	グループホームひなたの広場		
所在地	栃木県足利市五十部町490-1		
自己評価作成日	令和 4年 8月 9日	評価結果市町村受理日	令和4年10月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6
訪問調査日	令和4年9月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設では季節に合わせた行事(外出・屋内)を行っています。地域の催事には積極的に参加し、利用者には楽しんで頂きました地域の方々との情報交換・交流を深めています。特に屋内の季節感を出す為に、屋内の飾り付けなど工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、2011年4月に足利市の公募により開設したグループホームである。市郊外の幹線道路沿いの住宅地の一角にあり、小規模多機能施設が隣接している。近くにはチェーン店の飲食店やコンビニエンスストア、大きな病院、郵便局、地域の公民館などがあり、利便性に富んだ環境にある。コロナ禍以前は、地域の行事に参加したり、自治会長・民生委員の運営推進会議への参加により情報を受け、地域との交流も盛んに行われて利用者の楽しみになっていた。また、ボランティア活動の高校生との交流も実施されていた。現在は、様々な活動に制限がある中で、事業所内で利用者が楽しく過ごせるよう、職員が工夫して支援している。敷地内にある畑では、ナスやサツマイモを作っており、収穫して食事に取り入れて楽しんでいる。家庭的な雰囲気を大切に、利用者が日々その人らしい暮らしができる温かい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設玄関に事業所理念を掲げており、職員及び来所者の目に付くようにして職員は実践できるようにしている。	施設玄関に『家庭的な雰囲気大切に、利用者一人一人が楽しくその人らしい生活を送れるような介護を心がける』という理念を掲げている。職員はその理念を目にしてから仕事に臨んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で中止となっているが、地元高校生のボランティアとの交流や地域の催事に積極的に参加をしている。	散歩の時等、地域住民と挨拶を交わして顔見知りになっている。コロナ禍で中止となっているが、事業所の駐車場を休憩所にして立ち寄り地域の祭り神輿や、盆踊り大会や出店での買い物を利用者の楽しみになっていた。また、地元の高校生ボランティアとも交流していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループとして年2回の研修を行う際、地域の方々に声を掛け参加を呼びかけている。また、地域の方々からの相談にも対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で得た情報を活かせるように向上に努めている。	運営推進会議は、7月から市職員、包括支援センター職員、自治会長、民生委員、グループホームとケアホームの管理者が出席し、コロナ禍以前の通常体制で開催している。コロナ禍の情報を直接得て、有効に活かしている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市役所の職員が出ており施設の状態を把握してもらっている。また、地域包括の担当者も参加している。わからない事がある時は市の担当者に相談するようにしている。	運営推進会議に市担当者が出席しており、事業所の実情やサービスの取り組みを伝えている。日頃から連絡を取り、わからない事があれば相談して協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議や社内研修で学んだり話し合いをもち、実例を挙げたりして職員間で注意し合えるようにしている。	今はグループ全体の研修ができないため管理者会議で身体拘束について議題にし、それを持ち帰って職員会議で伝え職員のレベルアップに繋げている。また、職員が身体拘束をしないケアが実践できるよう、現場で気が付いたら注意したり申し送りや情報を共有し、より良いケアができるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士がお互いに注意し、またお互いに気づきをもち虐待の無いようにしている。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1度研修を行ったが管理者、職員共にまだ理解していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時、本人・家族に説明を行いながら不安や疑問を聞き、理解・納得して頂くように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会、来所時に現在の様子を伝えその際に意見要望を聞いている。	コロナ禍で家族の面会はできていないが、利用料支払いで来所した家族に利用者の様子を伝えたり、家族の心配事を聞くようにしている。そこで得た情報は職員間で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや月1回の職員会議の時間等で意見や提案を聞く機会を設け反映している。	利用者について伝えたいことや意見提案があれば連絡帳に記入してもらい、月1回の職員会議で取り上げている。特に職員との面談は設けていないが、必要があればその都度話し合いを持つようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状況を把握して会社に報告及び交渉し、職員がやりがいを持って仕事ができるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内外の研修に参加出来るようにし、事業所会議時の研修資料を職員が目を通す事で個々のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回の管理者会議内で交流及び意見交換を行い、サービスの向上に努めている。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安・要望を聞き施設での生活に安心して頂けるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安・要望を聞き安心して施設利用をして頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者が本人・家族にグループホームの特徴や施設として出来る事を説明し必要とするサービスの提供出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が身の回りの事を全て行うのではなく利用者に来る事をして頂き、お互い生活しているという関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時や連絡を行う時などに現在の本人の状態、今後の予想等を伝え理解・協力して頂けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の関係を途切れなくするように支援し関係の継続出来るように努めている。	以前は友人が来所したり、墓参りに行った時もあるが、今は面会も外出もできていない。利用者が馴染みの人に年賀状や暑中見舞を書く支援をしたり、書状を出すため家族に住所をたずねるなど、できることで支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は日々の状況を把握しながら利用者同士の関係性ややり取りに注意し良い関係性を保てるように支援している。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても関係を大切にし、本人・家族が気軽に相談等出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話、行動等から本人のニーズを理解・把握するように努め、申し送りや会議等で話し合いを行い共有し出来る限り意向に添えるように努めている。	一人ひとりの思いや暮らしの希望は、日々の会話や行動等から把握するよう努めている。現在、意見を言葉にする利用者が少なくなっているが、何かあれば職員間で情報共有して支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のこれまでの暮らし、生活歴を把握するとともに現在の本人にあった過ごし方が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の変化に注意し変化等があった時は経過記録に書き申し送りを行い職員間で情報を共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当職員が本人にあった暮らしが出来るように課題を挙げ本人・家族と話し意見を上げながらカンファレンスにて話し合い介護計画を作成している。	担当職員を中心に、利用者にあった暮らしを続けるための課題やケアのあり方について、利用者・家族等の意見を聞きながら、月1回のカンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。見直しは12か月位で行うが、状態の変化によりその都度対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態変化や気づいた事を記録・申し送り・連絡帳等で情報を共有しそれを介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の希望等、状態・状況を考慮し、ニーズに沿えるように努めている。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で中止しているが地域ボランティアの活用や地元の高校生ボランティアが来ている。また、地域の催事には積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に添えるようにかかりつけ医との関係を築くようにしている。また、365日24時間対応の協力医を紹介したりしている。	利用者・家族等の希望に添えるよう、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら往診を依頼したり、場合によって外来受診に付き添いしている。他科受診が必要であれば紹介状によってスムーズな受診に繋げている。24時間対応してくれる協力医もあり、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診・受診時に看護師に情報を伝え日中の状態の変化時に連絡を行うように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に地域連携シートを渡し、また口頭でも情報を伝えている。入院中も退院に備えて情報交換等相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常に重度化や終末期になる前から本人・家族に対して話し合いをしている。出来る事・出来ない事を十分に説明し家族・医療機関と連携して支援している。	重度化した場合や終末期のあり方について、利用者・家族等と話し合い、出来る事と出来ない事を説明しながら医療機関と連携して支援している。家族等の希望により看取りを行った経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回の会議で応急手当や初期対応の訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。昼夜想定訓練もしている。しかし、避難訓練は地域との連携が出来ていない。	大雨時の河川増水、山火事など、企業グループ内での身近な被災経験を共有し、防災意識は高まっている。年2回行う昼夜想定した避難訓練は、運営推進会議出席者の参加が得られるよう、会議後に行うなど工夫している。コロナ禍になってからは地域住民の参加はできていない。備蓄はグループホーム独自と企業グループ共有のものとで行っている。	いつ起こるか分からない災害にいつでも対応できるよう、どう動いたらいいか様々な状況を想定した図上訓練を行うなどして、職員の危機意識を更に高めることを期待したい。

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は一人ひとりの人格を尊重し、言動には十分注意するように対応している。	一人ひとりの人格を尊重する言葉遣いで、わかりやすく話すよう努めている。利用者によっては家族と一緒にいるような言葉遣いで対応している。入浴時やトイレ介助時は、周りにわからないようそっと誘導し介助見守りするなど、プライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が気をくばる事により本人の思いや希望を自己決定出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく利用者本人の思うように過ごしてもらうように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の身だしなみや月1回の散髪・髪染めを行っている。また、本人希望の洋服を着てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	なるべく希望に添えるようにしている。また、出来る事を職員と一緒にやっている。	食事が楽しみなものになるよう、何が食べたいか要望を取り入れながら、職員が献立を考え作っている。食材購入は半月ごとに2人の職員が交代で行っている。コロナ禍以前は、誕生日に外食することもあったが、今は事業所内でお祝いしている。また、レクリエーションでおやつの手作りも取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を用いて確認している。一人ひとりに合わせた栄養摂取や水分補給を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に応じた口腔ケアを行っている。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は時間を決めて声掛けをしてトイレ誘導している。また、チェック表を活用して排泄パターンを予測してトイレ誘導している。	排泄チェック表を使用して声掛け誘導している。寝たきりの利用者には2時間毎に体位交換とオムツ交換の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中、軽めの運動や少し多めに水分を摂取してもらっている。また、医師に相談して下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴出来るようにしている。また、入りやすいように浴室内外の温度調節、入浴剤や季節のお風呂にしている。	週2回を目安に入浴できるよう支援している。みかんの皮や沐浴剤を入れて入浴を楽しんだり、利用者が入浴しやすいよう、脱衣室で音楽をかけるなどの工夫をすることもある。寝たきりの利用者には2対1で入浴支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やホールで気分や状況に応じて過ごしてもらえるようにしている。夜間は本人が寝る時間までTVを見たり談話したり合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局で渡される処方箋のプリントをファイルとお薬手帳に管理して活用している。飲み忘れがないようにチェックシートに記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喜びある日々を過ごせるように楽しみごとや気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で自粛しているが、施設周辺を散歩したりドライブに行ったりしている。また、施設敷地内で洗濯干しや畑の手入れをしている。	以前は、サクラ・ツツジ等花見を利用者家族とも一緒に行っていたが今はできていない。コロナ禍になって車から降りないドライブを行っていたが、現在自粛している。来月にはコスモスを見に行く計画をしている。敷地内の畑や洗濯干しで外に出ることが今の主な外出となっている。	

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭についてはトラブルにならないように家族に了承を得て預かっている。必要に応じて使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不安がないようにいつもと変わらない空間を維持している。また、季節感を演出する為ホールや居室に飾り付けをしている。	共用空間はスッキリ整え、過ごしやすいよう温度や湿度もコントロールし、換気にも注意している。テーブル上にパーテーションを置き、感染防止に努めている。季節感を取り入れて四季を感じさせる壁飾りを貼るなど、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置場所を工夫している。本人の移動しやすい動線にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談して馴染みがあるものを置いたりして、居心地よく過ごせるように努めている。	居室にはエアコン、ベット、ダンス、カーテンが備え付けでスッキリしている。利用者の使いやすい品を持ち込んで居心地よく過ごせるよう支援している。居室には押入れがないため、オムツ等の置き場所を確保する必要があると考えているところである。寝たきりの利用者にはエアベッドを使用して床ずれ予防に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内で安心して過ごしてもらうように居室やトイレに札をつけ、環境に配慮し自立出来るようにしている。		